

環境科学院 地球圏科学専攻
修士論文公開発表会プログラム

【第1日目】 令和2年2月4日(火)

●座長: 安成 哲平(大気海洋物理学・気候力学コース助教)

- 9:20ー 9:40 菊池 壮平(大気海洋化学・環境変遷学コース)
「マヌス海盆堆積物 GDGT を用いた過去 168 万年間の西部太平洋 ITCZ 変動復元」
- 9:40ー10:00 山口 卓也(大気海洋物理学・気候力学コース)
「鳴門海峡における渦対の形成と時間発展の数値実験」
- 10:00ー10:20 長谷川 大輔(雪氷・寒冷圏科学コース)
「南極ドームふじアイスコアに含まれる過去 72 万年間の微粒子の化学形態分析」
- 10:20ー10:40 福本 峻吾(雪氷・寒冷圏科学コース)
「ロシア・カムチャッカ半島における 2000 年以降の氷河表面標高変化」

< 20 分 休 憩 >

●座長: 下山 宏(雪氷・寒冷圏科学コース助教)

- 11:00ー11:20 塚田 大河(大気海洋物理学・気候力学コース)
「ひまわり8号を用いた台風内部コア領域の風速推定」
- 11:20ー11:40 遠坂 哲(大気海洋化学・環境変遷学コース)
「黒潮域におけるタンパク質様蛍光性溶存有機物の動態に関する研究」
- 11:40ー12:00 井上 海地(大気海洋物理学・気候力学コース)
「ケープダンレーポリニヤ及び周辺海域における高密度陸棚水の
形成・変動過程」
- 12:00ー12:20 下野 智大(大気海洋化学・環境変遷学コース)
「鮮新世における南大洋 SST スタックデータの構築とそれに基づく
鮮新世 CO₂濃度の推定」

< お 昼 休 み 12:20-13:40 >

●座長:宮崎 雄三(大気海洋化学・環境変遷学コース助教)

13:40-14:00 Rahman Md. Arifur(大気海洋化学・環境変遷学コース)

「Evidence for meltwater discharge from Cordilleran Ice Sheet during the last deglaciation and its impact on the marine ecosystem in the Gulf of Alaska」

(最終融氷期におけるコルディエラ氷床の融氷イベントとそれがアラスカ湾の生態系に与えるインパクト)

14:00-14:20 藤支 良貴(雪氷・寒冷圏科学コース)

「グリーンランド北西部ボードインフィヨルドにおける水温・塩分・流速の季節変動」

14:20-14:40 下久保 香奈(大気海洋化学・環境変遷学コース)

「西部北太平洋におけるラン藻 *Synechococcus* の分布と生物地球化学特性」

< 20 分 休 憩 >

●座長:杉山 慎(雪氷・寒冷圏科学コース教授)

15:00-15:20 森 雄太郎(大気海洋化学・環境変遷学コース)

「海洋における燃焼起源溶存有機物の存在量を決定する要因の解明」

15:20-15:40 織田 将太(大気海洋物理学・気候力学コース)

「寒気吹き出しに伴う沿海州風下における雲バンドの蛇行について」

15:40-16:00 木村 惇志(大気海洋物理学・気候力学コース)

「非静力学モデルを用いた平成 30 年 7 月豪雨の数値実験」

16:00-16:20 佐藤 堅太(大気海洋物理学・気候力学コース)

「北極海の夏の海氷面積変動の要因と予測可能性」

【第2日目】 令和2年2月5日(水)

●座長: 力石 嘉人(大気海洋化学・環境変遷学コース教授)

9:40— 10:00 堅田 宏樹(大気海洋物理学・気候力学コース)

「再解析データを用いたオホーツク海高気圧の形成過程の長期解析」

10:00—10:20 陳 志崗(大気海洋化学・環境変遷学コース)

「Spatiotemporal variation of nitrogen budget in the subarctic region of western North Pacific using excess nitrogen N_2^* 」

(過剰窒素量 N_2^* を用いた北太平洋西部亜寒帯域における窒素収支の時空間変化)

10:20—10:40 近藤 研(雪氷・寒冷圏科学コース)

「グリーンランド北西部カナック氷帽における融解水の流出」

< 20 分 休 憩 >

●座長: 平野 大輔(大気海洋物理学・気候力学コース助教)

11:00—11:20 柚木 駿(大気海洋化学・環境変遷学コース)

「Formulation of the disequilibrium for mapping anthropogenic CO_2 in the Southern Ocean」
(南大洋における人為起源 CO_2 マッピングのための非平衡量の定式化)

11:20—11:40 潘 先亮(大気海洋化学・環境変遷学コース)

「Spatiotemporal distribution of anthropogenic nitrogen and internal nitrogen dynamics in the Southern Ocean」
(南大洋における人為起源窒素の時空間分布とその内部窒素動態の解明)

11:40—12:00 遠藤 直希(大気海洋物理学・気候力学コース)

「南極周極流の風応力と海底地形への応答」

12:00—12:20 川上 薫(雪氷・寒冷圏科学コース)

「グリーンランド北西部 SIGMA-A アイスコアの融解再凍結層に含まれる不純物の解析」

< お 昼 休 み 12:20—13:40 >

●座長:入野 智久(大気海洋化学・環境変遷学コース助教)

- 13:40-14:00 竹内 猛晶(大気海洋物理学・気候力学コース)
「渦と海底地形による非線形 pseudoimage 解と heton 型渦対の形成」
- 14:00-14:20 澤柳 元春(大気海洋物理学・気候力学コース)
「北海道における夏季の強い降水に対する近海の SST の影響」
- 14:20-14:40 高木 穂衣(大気海洋物理学・気候力学コース)
「不均一な森林がスカラー量の拡散過程に及ぼす影響」

< 20 分 休 憩 >

●座長:長谷部 文雄(大気海洋物理学・気候力学コース特任教授)

- 15:00-15:20 土屋 吉範(大気海洋物理学・気候力学コース)
「旅客機データを用いた晴天乱気流指数の検証」
- 15:20-15:40 國府 陽一郎(雪氷・寒冷圏科学コース)
「東南極 Adélie/George V Land 地域における水塊構造の変動と氷山の影響について」
- 15:40-16:00 上西園 彩乃(大気海洋物理学・気候力学コース)
「フラジリアイスを考慮した南極沿岸ポリニヤの変動機構」

【第3日目】令和2年2月12日(水)

●座長:関 宰(大気海洋化学・環境変遷学コース准教授)

- 10:00-10:20 飯塚 睦(大気海洋化学・環境変遷学コース)
「最終間氷期における東南極氷床変動の復元」
- 10:20-10:40 本田 春貴(大気海洋化学・環境変遷学コース)
「ドームふじアイスコア中の有機分子エアロゾルトレーサー分析による氷期-間氷期
サイクルに伴う炭素質エアロゾル変動の復元」

●令和元年 9 月修了生

・令和元年 7 月 30 日(火) 13:00~14:00

・場 所: 環境科学院 大講義室 D201

・座長: 鈴木 光次 (大気海洋化学・環境変遷学コース教授)

13:00-13:20 土橋 司(大気海洋化学・環境変遷学コース)

「北太平洋亜熱帯域における海洋大気エアロゾル中の水溶性有機態窒素の起源:
海洋表層の微生物活動との関係」

13:20-13:40 波多 俊太郎(雪氷・寒冷圏科学コース)

「南パタゴニア氷原 Pio XI 氷河における近年の氷河前進とそのメカニズム」

13:40-14:00 Nogovitsyn Aleksandr(大気海洋化学・環境変遷学コース)

「Spatial variations in foliar carbon isotopes and nitrogen contents and NDVI in larch forest
of eastern Siberia after extreme wet event」

(異常気象後の東シベリアカラマツ葉の炭素同位体比および窒素含量と NDVI の
空間分布)